

★現代最高峰のジャズ・ドラマー★

ブライアン・ブレイド【Brian Blade】

ボブ・ディラン、ジョニ・ミッチェル、デヴィッド・サンボーン、ウェイン・シャーター等、数多くのアーティストから絶大な信頼を受ける天才ドラマー＝ブライアン・ブレイド。10年以上前に筆者がNYのレストランでウェーターをしていた時に、クリスチャン・マクブライド（b）と一緒に店を訪れ、前菜に“揚げシューマイ”を注文したブライアン。筆者がテーブルに運んだ時に、無情にも4つの“揚げシューマイ”のうちの1つがテーブルの上に転がってしまい、謝りながら“新しいものを持って来ます”と言うや否や、箸でその転がった“揚げシューマイ”を挟んで「It's OK!」と口に入れたブライアン。その優しさと巧みなチョップ・スティックさばきに感動したのは言うまでもない…。念願の再会と共にあの時の失礼をお詫びして、待望のインタビューが始った！

（2008年9月3日（水）「ユニバーサルミュージック株式会社」にて）

取材 & 文：加瀬正之



【写真提供／コットンクラブ 撮影／土居政則】

●「フェロウシップ・バンド」として今回が初来日となりますが、昨年「コットンクラブ」で初日のライブを終えての感想は？

最高だね！「コットンクラブ」は演奏する側にとっても素晴らしい場所だし、働いているスタッフもいい人ばかりで、お客さんも限られた層やひとつの種類の人たちだけじゃなくて、若い人も年配の人も、ミュージシャンの人もそうでない人もたくさん見に来てくれて、本当に素晴らしいし嬉しく思っているよ。

●あなたにとって日本の印象は？

日本は大好きで、今回初めて自分のバンドと一緒に来れたことは最高だね。東京もそうだけど、その土地や場所それぞれに個性や独特のリズムがあって、毎回同じホテルに泊っても、その時々で違った発見ができるし、街を歩いていても地下鉄に乗っていても、様々な環境が交差して混ざったような雰囲気の中で、それぞれ異なるリズムやメロディを感じることができるんだ。

●新作『シーズン・オブ・チェンジズ』に込めた思いやこの作品であなたが語ろうとしていることは？

「フェロウシップ・バンド」として3枚目のアルバムで、みんな歳も取ったよね（笑）。他の全てのグループやバンドが同じメンバーでずっと一緒にやっていくわけではないと思うけど、メンバーが変われば音楽も変わるし、音楽も理想に従っていきたくないんだ。収録曲の「ルーペル・ラバリス」は今3歳になる姪のために書いた曲で、「ストーナー・ヒル」は自分の故郷（ルイジアナ州シュリーブポート）を思っただけ書いた曲なんだけど、ジョン・カワード（p）が書いたタイトル・ナンバーの「シーズン・オブ・チェンジズ」や「放蕩息子の帰還」も未来に向かって成長・変化していきたいという思いが込められているんだ。ジャケットのカバー写真もとても気に入っていて、自分が故郷で撮ったものなんだけど、ちょうど冬の季節でまわりに何もなくて、でも、このカバー写真にも小さなストーリーがあるんだ。地面に種をまいて～芽が出て～徐々に育って～やがて大きな木になっている。これも自分たちのレポートみたいなものだね（笑）。この作品にはそういうアイデアや思いが込められているんだ。

●前作『パーセプチュアル』から8年のブランクがありましたね
自分のバンドを持つ責任や、バンドのメンバーの一員としての責任もあるし、それを示すために作品を発表するということもあるけれど、この新作は「ヴァーヴ・ユニバーサル」に移籍して初めてのアルバムだし、これからもっとたくさんのアイデアや作品を発表していけるように僕自身も願っているんだ。

●結成から丸10年が経ちましたが「フェロウシップ・バンド」はあなたにとってどのような存在ですか？

大きな目的を持つことができるし、自分たちがやっていることに一生懸命になるだけでなく、バンドを信じるということでも自分自身が満たされる部分もあるんだ。他の様々なバンドやグループに属しているミュージシャンの中でアイデアのはけ口がないミュージシャンもたくさんいると思うけど、「フェロウシップ・バンド」は友達としても長い付き合いだし、そういったメンバーそれぞれのアイデアのはけ口となる部分を反映できればいいと思っている。僕にとっては本当にとても特別な存在だね。

●ドラマーとして自分自身のバンドを持つことは大きいですよ

これまでのジャズ・ドラマーの系譜を見ていくと、チック・ウェー、アート・レイキー、エルヴィン・ジョーンズ、マックス・ローチ、トニー・ウィリアムスとか、楽器は別にしても、自分のグループを持つことで自分の言いたいことや表現したいことがあったんだと思うんだ。だから、自分たちにもその系譜の一部として、音楽を作っていくことに対する門戸が開かれていると思っている。

●ミュージシャンとして転機となったのはいつですか？

ニューオリンズの大学に通って、音楽をやっていたんだけど、初めて自分の家から独立した時でもあったし、先生たちが自分のヒーローだった存在の人たちと会わせてくれたり、一緒に演奏する機会を作ってくれたんだ。その中でジョージ・フレンチ、イミエル・パネットとホテルで週6日間、夜ごと演奏していた。ジャズだけでなくニューオリンズのR&Bとかいろいろな音楽を演奏したけど、そこではたくさんのことを学んだんだ。自分が演奏したかったモダン・ミュージックやジャズだけでなく、純粋にどうやって音楽を作っていくかという基礎・センスを植え付けてくれた。あの時の経験はミュージシャンとして本当に大きかったね。

●作曲する時はどの楽器を使って行っているのですか？

ギターだよ。ピアノなどで作曲することはこれまでに考えたことはないんだ。ジョン（＝ジョン・カワード）がピアノで作曲するから、僕がギターで曲を作ること、ピアノとギターでとても良い関係が保てるんだ。互いにピアノとギターで攻めて来るような感じもあるし、とても相性がいいんだ。彼とは親しい友人でもあるしね。

●クリストマスとは大学時代から共演していて、クリスチャン・マクブライドとの共演も多く、最近では北川潔さんのトリオでも活動していますが、ペーストについての考えを教えてください



【写真提供/コットンクラブ 撮影/土居政則】

そうだね…どんなベーシストが好きかって尋ねられると答えに困ってしまうけど、クリス・トーマスやクリスチャン・マクブライド、キヨシ（北川潔）、ジョン・パティトゥッチ、スコット・コーリーとか、コネクションを感じる人がたくさんいて、それぞれ個性だけでなく柔軟性や創造力もあって、根っこがしっかりと地面に根付いているかのような独特のサウンドを持っているし、思わず踊りたくなるようなリズムや自由にどんなこともやってしまうという才能も持っているよね。そういうことがベースとドラムの関係上とても重要だし、ベースとドラムにしかできないこともあるし 互いに反応し合えるという関係が素晴らしいと思っているよ。

●ボブ・ディランと彼のアルバム『Time Out Of Mind』で共演していますが、ボブ・ディランはどんな人でしたか？

スタジオでレコーディングしている時に中に入って来て「どう思う？」って僕に聞くんだった。でも、いきなりだったし、正直何て答えていいのかわからなかったんだ(笑)。その気持ちわかるだろう？でも、彼もバンドと一緒に音楽を作るのが好きなんだよね。僕のヒーローでもあるし、多くの人にとって偉大なヒーローでもあるし、『フリーホイーリン』(2nd アルバム)を聴いた時に「すごい！」って思ったし、どこかトラディショナルなブルースマンのようでもあるって、何かを生み出すパワー、その才能は素晴らしいよね。曲についても彼は書かなきゃいけないから書いているという時もあると思うんだけど、人に対してメッセージや何か発するというパワーはすごいし、本当に素晴らしい存在だね。

●ジャズ以外のアーティストとの共演も多いですが、常に自分は「ジャズ・ドラマー」なんだという意識を持っているのですか？

常に「いいドラマー」(=Good Drummer)であることを考えているよ。音楽は教会で始めたからゴスペルがルーツになっているんだけど、即興やグルーヴやビートを生み出したり、シンガーと共演する時など、いろいろな状況で演奏する際にとても役立っているし、結局そこに結び付いているんだと思っている。

【the official website of Brian Blade & The Fellowship Band】<http://www.brianblade.com/>

ブライアン・ブレイドが“フェロウシップ・バンド”を率いて放った8年ぶりの新作&ヴァーヴ移籍第1弾！



シーズン・オブ・チェンジズ
ブライアン・ブレイド

ユニバーサル・ミュージック/UCCV-1106
¥2,500 (tax in)
Now On Sale!



正しく“ナイスガイ”なその人柄も魅力のブライアン！

●ジャズを問わず共演してみたいアーティストはいますか？

う〜ん、それは難しいね。僕はとても幸運で、ボビー・ハッチャーソンやジョー・ヘンダーソンをはじめ、自分のヒーローだった人々と共演できているけど、今後もそういう素晴らしい機会を待っているというか、そういうサプライズを楽しみにしたいね(笑)。

●ドラマーとして一番重要なこと、大切にしていることは？

今は意識的に何も考えていないことの方が多いかな…。勿論、ドラマーとしてやらなきゃいけないことは分かっているし、常に音楽をいい方向に持っていきたいと思っていて、メリハリを利かせたり、瞬時にシフトさせたりはするけど、これまで練習してきたことや今までの経験に基づいて、状況に応じて瞬間瞬間に反応を繰り返しながら、常に変わっていきけるようには心がけているよ。

●音楽以外の趣味は？

以前はよくテニスをしていただけ、今は音楽が僕の人生の大きな部分を占めているから、時間があれば曲を書いたりしている。でも、散歩するのも好きだし、とにかく自分の足で地面を踏みしめて歩くことで、いろいろな場所やものからインスピレーションを得ることができると思うんだ。それに、部屋の中でコンピューターと向かい合っている状況からも抜け出せるしね(笑)。

●あなたの夢は？

今、父と一緒にレコードを作りたいと考えているんだ。牧師として47年間教会に仕えているんだけど、彼は素晴らしいシンガーでもあるし、彼の存在は僕自身の最初の音楽体験でもあるんだ。「フェロウシップ・バンド」での活動や作品作りも継続していくけれど、恐らく、次の作品は父との共演アルバムになると思う。

●最後にファンへのメッセージをお願いします

作品全体やアルバムの曲が聴いてくれた人々と繋がって、それぞれ個人の喜びや楽しみと結び付けてくれれば嬉しいね。

ブライアン・ブレイドの貴重な直筆サイン入り新作CD『シーズン・オブ・チェンジズ』を1名様にプレゼント！



「送付先住所」「氏名」「電話番号」を記載の上、下記アンケートに答えて、件名に「ブライアン・ブレイドサイン入りCDプレゼント係」と明記の上、E-mail: thewalker@k07.itscom.net 宛てにお送り下さい。
【アンケート】①性別 ②年齢 ③職業 ④本誌をGETした場所 ⑤当インタビュー記事の感想 ⑥本誌の感想
【当選は発送にて代えさせていただきます】